

事業名	令和3年度ワカメ養殖概況（増養殖技術研究）
予算区分	県単
事業実施期間	平成12年度～
担当者	（環境増養殖担当）笠井謙太郎、（海洋生産技術担当）多田篤司
共同研究機関等	

#### <目的>

令和3年度の徳島県内のワカメ養殖概況及び種苗の有償配布状況についてとりまとめる。

#### <結果>

##### 種苗生産～育苗

天候による陸上水槽内の種苗の生育不良は報告されなかった。海面での育苗は、例年通り10月15日前後から開始された。水産研究課鳴門庁舎の汲み上げ海水温は、平年並み～やや低めに推移し、育苗開始目安の23℃を10月23日に下回った。生産現場では種苗の不足は概ねなかった。

##### 本養殖

本養殖は、播磨灘沿岸から、例年より少し遅れて11月中旬から順次開始された。3月下旬には強風の日が続き、26日には最大風速12.2m/sを記録した。強風はワカメ養殖に影響を与え、特に紀伊水道側沿岸の養殖漁場において株が脱落するなどの被害がみられた。例年以上に株が落ちたという報告が複数あり、今後ワカメ養殖に関する新たな課題となる可能性がある。

##### 食害

小鳴門海峡沿岸や紀伊水道沿岸で深刻な食害が起きた。また、小鳴門海峡の定点に設置した間欠駆動式カメラによりアイゴ、クロダイ、ウマヅラハギに加え、多数のメジナ類の出現を確認した。メジナ類は比較的水温の高い10月下旬から12月中旬にかけての期間に連日のように出現した。

##### 色落ち

11月下旬に大型ケイ藻（コシノディスカス・ワイレシー）が広い範囲でみられ、DIN濃度が低下した。特に播磨灘では11月下旬ごろに色落ち発生日目安となる $2\mu\text{mol/L}$ 未満となった。県内各地で12月からDINの回復傾向がみられ、1月の色落ちの発生は少なかった。2月からは播磨灘沿岸などで色落ちが始まった。

##### 生長・品質及び生産量

食害や色落ちの被害、生長の鈍化がみられたため生産量は低下し、品質面は令和2年度と比べ回復したため例年どおりの水準となったと考えられる。

##### ワカメ種苗の有償配布

平成30年度より、水産研究課が開発した高水温耐性株（鳴門椿）の配偶体を有償配布している。令和3年度は、県下6漁協の19名に配布し、9漁協の37名の生産者が養殖に利用した。

#### <次年度の計画>

継続する。